

“ Coffee break Talk. 3 本物に出会うこと...”

支部長 今林 光秀

JSCA 九州支部の皆様、GW いかがお過ごしでしたでしょうか。去年の今頃、今年の GW がこの状況とは考えていませんでした。100 年に一度の大禍と言われてますが、人の力の及ばない何かを感じてしまいます。とにかく、今は謙虚に誠実に責任ある行動をと思います。しばらくは、大好きな旅行もお預けとなりますが、気晴らしに、これまでの旅行で出会ってきた“本物”について、自分なりに感じたことを少しだけお話してみたいと思います。



[ヘルシンキ CAFE AALTO にて]

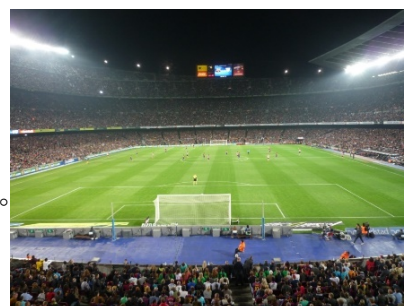
■ 「真珠の耳飾りの少女」/フェルメール (1665-1666)

2019 年 8 月 オランダ・デンハーグ/マウリッツハイス美術館 にて前から知ってた絵ですが、本物を見てハッとさせられました。絵の正面/右斜め/左斜めとどこに立っても少女と目が合い、こっちが見ていると言うよりも少女にじっと見られている。写真などで見た事前の印象よりも明るくて鮮やかな色使いと光の描写に躍動感があり(これは右写真でもわかりませんね)、少女が「ねぇ私を見て！」と訴えかけてくるように感じられ、絵画に宿る生命力をリアルで体感する感動を覚えました。



● 「リオネル・メッシと FC バルセロナ (以下、バルサ)」

2012 年 3 月 FCBarcelona vs Athletic Bilbao / カンプ・ノウ にて大好きなバルサのサッカーを念願のカンプノウで体感した。選手入場時、バルサのイムノ(応援歌)の大音量に包まれて、98,000 大観衆の「バルサ、バルサ、バ〜ルサ！」大合唱が響く。展開される華麗なバルサのサッカーと大観衆が一体となり、スタジアムは劇場と化した。凄すぎる、これが世界か！



お目当てのメッシはというと、辺りをキョロキョロしながらマンマークに近い相手 DF の間をブラブラと歩いている。歩いているメッシをなぜ DF は捕まえないのだろうか？たぶん、捕まえられないのだろう。イニエスタやブスケツツ(シャビ途中出場)らのパス回しに相手 DF は動かされ、メッシは空いたスペースで機を伺う。ラストパスが先か、それまで歩いていたメッシの驚異的ダッシュが先か、獲物を狙うが如く、圧倒的なメッシのスピードと個人技の前に相手守備陣は崩され、メッシのシュート炸裂。それが次から次に、様々な形で展開される。テレビではなくそこにいたからこそ感じられる圧倒的な空気感に、鳥肌が立つ感動に包まれた一夜でした。(22 時キックオフ 24 時試合終了、スペインは凄い。)

リモートも便利で良いですが、感動的なリアルの力を感じにまた旅したいと想います。

< 2021 年 5 月 5 日 今日 Coffee が美味しい。 >